

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑬形態別介護技術＝（問題 101～問題 111）

（2007 年 5 月 28 日ホームページ掲載）

【形態別介護技術】

問題101 加齢による身体的変化に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 膀胱容量の増加により、尿意の間隔は長くなりやすい。
- B. 喉の乾きを感じにくくなるため、脱水を起こしやすい。
- C. 腸の蠕動運動の低下により、便秘になりやすい。
- D. 嚥下反射の低下により、誤嚥性肺炎を起こしやすい。

（組み合わせ）

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 101: 正答 4×○○○

A. ×「膀胱容量の増加」ではなく「膀胱容量の萎縮」である。また、「長くなりやすい」ではなく、「年齢をとるとトイレが近くなるとよくいわれる」ように「短くなる」である。我慢できないで尿が漏れるものは蓄尿障害といい、①過活動膀胱、②膀胱弾力性の低下、③膀胱容量の萎縮がある。加齢に伴って、一般的に、女性は尿道の位置の変形や骨盤底の筋肉群の機能低下が起こりやすくなり、腹圧がかかった時の尿もれやトイレまで我慢がきかない尿もれが起こりやすくなる。一方、男性は、前立腺が肥大化する傾向があり、尿道を狭窄することで尿が出にくくなることもある。

B. ○加齢とともに、喉の渇きや熱を感じにくい傾向にあり、細胞は常に水分を欲しているのに、脳からの指令が滞り、自発的に水分補給をしにくいいため、若年者に比べて脱水症状を起こしやすくなる。

C. ○加齢に伴い、腸の蠕動運動の低下、腹筋などの筋力の減退、食事量の減少などにより便秘になりやすくなる。

D. ○嚥下運動は、脳からの指令によって反射的に行われる。脳の機能が低下すれば、この嚥下反射の低下によって、菌のついた食べ物や唾液が誤って気管に入ると、気管から肺に菌が送られ、誤嚥性

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

肺炎が起こりやすくなる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題102 一人暮らしの高齢者への訪問介護員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 利用者の身体上の変化を把握するために、洗濯物の量や汚れ具合などを見ることは大切である。
- B. 初回訪問時、一人暮らしになった経緯や経済状態を詳しく聞く。
- C. 一人暮らしが継続できるかどうか情報収集し、事業所を通して介護支援専門員に報告する。
- D. 急病や事故への対応として、近隣や親族などの協力体制を整えるために介護支援専門員と相談しておく。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	○	×

問題 102: 正答 2○×○○

●訪問介護および訪問介護員(ホームヘルパー)の法的な根拠は以下の通りである。

「この法律において「訪問介護」とは、要介護者であつて、居宅(老人福祉法(昭和38年法律第133号)第20条の6に規定する軽費老人ホーム、同法第29条第1項に規定する有料老人ホーム(第11項及び第19項において「有料老人ホーム」という。))その他の厚生労働省令で定める施設における居室を含む。以下同じ。)において介護を受けるもの(以下「居宅要介護者」という。)について、その者の居宅において介護福祉士その他政令で定める者により行われる入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話であつて、厚生労働省令で定めるもの(夜間対応型訪問介護に該当するものを除く。)をいう。」(介護保険法第8条第2項)と「訪問介護」が規定され、かつ、「訪問介護員」は法文にあるように「介護福祉士その他政令で定める者」を指す。

●訪問介護員の訪問介護の基本は、以下の通りである。

- ①訪問介護員の価値観ややり方を押しつけないで、主体は利用者にあることを前提にして、利用者の生活スタイルや希望・要望を尊重する。これは、一つひとつ利用者に確認と了解を取ることを意味する。また、従来からの近隣との関係を維持、改善することも意味する。
- ②限られた時間内であるため、能率的な業務を心がける。
- ③利用者との信頼関係を維持し、向上させる。これは、明確に表現されない要望・希望を汲み取り、日

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

常会話の中から利用者の望む援助、介護を実現することを意味する。

④加齢における老化や障害について、正確に理解する。これは、従来できていたことが加齢によりできなくなってきた部分を援助、介護することを意味する。また、家族、医療関係者（医師、看護師など）にできるだけ利用者の状況を報告し、よりよい介護援助ができる環境を作ることを意味する。

⑤利用者を一個人として尊重する。これは、関係者のよりよい関係に基づいて、「自尊心」「羞恥心」を常にケアすることを意味する。

⑥身体介護における利用者の健康状態をチェック項目は、①バイタルサイン（呼吸、脈拍、意識、体重、血圧など）、②顔色、表情、機嫌、目の輝き、皮膚の状態、③食欲、食事の摂取量、④水分の摂取状況、脱水の早期発見（口の乾き、発熱、倦怠感など）、⑤睡眠状態、⑥排泄状態（尿便の回数、量、性状）、⑦服薬状況、⑧咳、痰、喘息の音など、⑨身体の動きの変化（麻痺、しびれ、関節の動きなど）、⑩言動（いつもと異なるところはないか）である。これは、異常や変化があれば速やかに医療関係者、かかりつけの医師に連絡し、適切に対処することを意味する。

●訪問介護員制度に関連して、2006年度からは新たに介護職員基礎研修という制度が新たに導入されているが、上記Aの改正案との関連もあり、不確定な部分も多く、今後の動向を注目する必要がある。しばらくは訪問介護員の資格所持者も移行していき、数年間はこれまでの制度と並行される予定である。

A.○上記④の項目に該当する。

B.×初回訪問は、信頼関係の基盤づくりに意を用いる必要がある。また、訪問介護は上記の解説にあるとおり、「日常生活上の支援」を行うもので、設問にあるような「一人暮らしになった経緯や経済状態を詳しく聞く」ことは不適切である。

C.○上記の解説を参照のこと。

D.○上記の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題103 寝たきりの人の介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 活動の能力が低下しているので、安静を保ち体力の回復を待つ。
- B. 体位を変える場合には、皮膚に摩擦を起こさないように配慮する。
- C. 拘縮がある場合には、動かすと嫌がるので、動かさないようにする。
- D. 肘や踵などにも褥瘡ができるので、注意して観察する。

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

3 ○ × × ○

4 × ○ × ○

5 × × × ○

問題 103: 正答 4×○×○

A. ×脳血管障害, 骨折など病状・状態により違いはあるが, 寝たきりは過度の安静による寝かせきりが原因となることが多い。寝たきりにしないためには, できるだけ早期からリハビリを行い, 生活のスタイルや1日のリズムを取り戻すことが大切といわれている。

B. ○寝たきり状態では, 皮膚の軟部組織の萎縮や低栄養のため, 褥瘡が発生しやすい。体位変換に際しては, 利用者の身体を小さくまとめ, できるだけ皮膚の摩擦を少なく行う。

C. ×「動かさないようにする」のではなく「本人の納得をもとに, 外部から動かす」である。手を動かせない場合は, 本人にしなさいと言っても無理である。本人 ができないからと, 放置しておく, 1 か月くらいで動かさない関節は動かなくなり, 固まってしまう(拘縮)。意識不明でも, 外部から動かしていると, 関節の拘縮は殆ど生じないといわれる。「自立する」には「寝たきり」期間の3倍のリハビリ期間が必要ともいわれ, 早期にリハビリをすれば「寝たきり」期間も少なくてすむことに留意すべきである。

D. ○褥瘡の好発部位は, 頭部・肩甲部・肘部・殿部・踵部などで, いずれも人体骨格の突出部であり, 体圧が集中する部位である。問題 89 の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題104 認知症の人の理解や介護職員の対応に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 重度であっても, 本人の願いを理解していくことを基本とする。

B. 潜在能力を最大限にいかすことを基本とする。

C. 事柄によっては, 適切に判断できる場合がある。

D. 不潔行為を避けるために, つなぎのパジャマを着せる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

問題 104: 正答 1○○○×

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

A.○認知症の本人の願いに真摯に心を向けることが最も重要であり、介護職員には専門職として、本人が言葉にできない「願い」を明らかにすることも求められる。

B.○認知症においては、本人の生活能力を活性化し、本人自身の潜在能力を発掘・引き出すことによって、認知症の改善・進行の防止につなげられる。

C.○脳血管障害による認知症では、障害された部位によって症状は異なり、めまい、しびれ、言語障害、知的能力の低下等にはむらがあり、記憶力の低下が強いわりには判断力や理解力などが相対的によく保たれている場合(「まだら認知症」)がある。

D.×「つなぎのパジャマ」は、身体拘束であり、禁止されている。「脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。」ことは身体拘束にあたと明記されている。(2001年の「身体拘束ゼロに役立つ福祉用具・居住環境の工夫」)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題105 視覚障害に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 老視……屈折異常……拡大鏡の使用
- B. 緑内障……眼圧低下……点眼薬のさし忘れ防止
- C. 黄斑変性……半側空間無視……読む文字の拡大
- D. 白内障……目のかすみ……眼内レンズの挿入

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 105: 正答 3○××○

A.○老視は一般には老眼と呼ばれる。近視や遠視、乱視、老視といった、屈折異常によって起こる視力障害(像の鮮明度の障害)は、屈折検査で診断される。老視では、生活には拡大鏡などを使用する。

B.×「眼圧低下」ではなく「眼圧上昇」である。緑内障とは、眼圧が高いために視神経が障害されて萎縮し、それに対応した視野が損なわれて、視力も低下していく疾患である。緑内障の治療は、原則的に眼圧を下げる点眼薬を使うこと(点眼治療)から始まる。

C.×「半側空間無視」は脳卒中などの重要な後遺症のひとつであり、他の視覚障害の事項とは異なる。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

問題 107 の解説を参照のこと。黄斑とは、網膜の中心にあり、物を見るために大切な部分であり、このうち加齢が原因で老化現象が起こり、視力が低下する疾患を「加齢黄斑変性」という。早期治療により、比較的視力は良好となるが、放置すれば失明に至る危険性もある。加齢黄斑変性の治療の主流は「光線力学的療法」であり、2004年に医療保険の適用になった。

D.○白内障とは、カメラのレンズの働きをしている水晶体が濁ることにより、ものがかすんだり、二重に見えたりし、進行すれば視力が低下する疾患である。原因の大半は加齢によるものである。白内障の「眼内レンズ挿入手術は、1992年に医療保険の適用になった。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題106 聴覚障害者、言語機能障害者の理解や対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 伝音性難聴では、補聴器の使用は有効であることが多い。
- B. 高齢者の難聴では、感音性難聴が多い。
- C. 感覚性失語では、聞いた話を理解することができる。
- D. 話し言葉だけで会話が困難な構音障害では、50音表を用いるなどする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 106: 正答 1○○×○

A.○伝音声難聴とは、外耳と鼓膜および中耳の障害による難聴であるが、音を聞くための神経には異常がないので治療できる可能性があり、音が小さくなって伝わるために補聴器が有効である場合が多い。中耳炎などによる難聴はこれにあたる。一方、感音性難聴は、内耳または聴覚神経に障害がある難聴であり、医学的な治療が困難で、「低音は聞こえる-高音は聞こえない」「音は聞こえる-何の音かわからない」などの症状で、補聴器は有効ではない。幼児期からこの難聴の人は発音の修得が難しいという問題があるといわれる。

B.○高齢者には難聴は多く、その多くは加齢に伴う感音性難聴である。突発性難聴が高齢者に起こることがある。上記 A の解説を参照のこと。

C.×感覚性失語は、「聞いた話を理解することができる」ではなく「聞いた話を理解することができない」である。感覚性失語とは、言語表出より聴理解が障害される失語であり、運動性失語とは、聴理解

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

より言語表出が障害される失語である。

D.○構音障害とは、発語に用いる口蓋、口唇、舌、のど、などの筋肉を支配する神経が麻痺しているため、語音を組み立てられない状態をいう。50音表の指差しや筆談が代償として使えるのは、「運動障害性構音障害」(後天性の構音障害)の場合である。なお、先天性のものとしては、「機能性構音障害」「器質性構音障害」がある。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題107 脳梗塞で左片麻痺、高次脳機能障害をきたした人の日常生活で起こりうることに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせ一つ選びなさい。

- A. 食事のときに、右隣にいる人の分には手を出す。
- B. 衣服の上下・左右を間違える。
- C. 右側にある障害物に気がつかず、よく衝突する。
- D. ひげそりで、右側のひげをそり残す。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 107: 正答 1〇〇××

●大脳で損傷を生じた場合には、反対側の麻痺を生じ、右脳が損傷すれば左側の麻痺が、左脳が損傷すれば右側の麻痺が生じる。右利きの人で大きな脳梗塞の右片麻痺では「失語症」が、左片麻痺では「左半側空間失認」といった高次脳機能障害を合併しやすい。

●半側空間失認とは、空間の認知障害を生じ、大脳病巣の反対側の刺激に反応せず、そちらを向こうとしない症状を指す。右半球の脳卒中の約40%に見られるといわれ、左半球の場合はまれで、大部分は「左半側空間失認」として症状が現れる。典型的な症状としては、歩行・移動のときに左側の壁にぶつかる、食事のときに左側の皿に気づかず手をつけない、車椅子のブレーキをかけ忘れて転倒する、などである。「半盲」は視覚的に見えないという状態であるが、「半側空間失認」は見えていても無視してしまう状態である。

●症状改善のためには、本人に自発的に左を向き注意を払うように、何度も繰り返して誘導することが大切であるといわれている。

A.○, B.○, C.×(「右側」ではなく「左側」である), D.×(「右側」ではなく「左側」である)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

問題108 関節リウマチの人の介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 症状は、天候や季節などの影響を受けない。
- B. 病気になる前の生活習慣や日常生活を維持できるよう工夫する。
- C. 日常生活での不便さは、関節の変形など外見だけでは判断しない。
- D. 社会資源は、本人と家族の意向を尊重しながら適切に活用できるよう支援する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 108: 正答 4×○○○

●関節リウマチは、膠原病の一種で、関節の滑膜の炎症により、疼痛や機能障害を引き起こす疾患である。発症は圧倒的に女性に多い(男性3倍)。

A. ×「天候や季節などの影響を受けない」ではなく「影響を受ける」である。関節リウマチは、「日内変動」があり、1日のうちで痛み、関節のこわばりが変化する。また、天候や季節ストレス、疲労など体調によっても症状が変化するといわれる。

B. ○病状の進行とともに関節を痛めることで変形や硬直を生じて、ものをつまむ、箸やペンを持つ、パソコンを使うなどの生活上のさまざまな場面で多くの問題が生じてくる。自助具の使用や生活道具の工夫をして、生活環境を整備することは大切である。

C. ○介護においては、関節リウマチという疾患・治療について理解を深めることが重要である。関節リウマチに限らず、一般常識的な事柄であり、「形態別介護技術」の問題としてはお粗末である。

D. ○介護においては、関節リウマチという疾患・治療について、十分に理解することが重要である。リウマチに起因する関節や歩行障害等があれば身体障害者になる可能性があり、身体障害者手帳が取得されれば障害者の福祉サービスが受けられ、税金の控除や等級により各種サービスがある。家族や本人の意向を尊重することが基本である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題109 内部障害のある人への介護従事者の介護に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせ一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- A. 酸素療法をしている人が息苦しさを訴えた場合、本人の求めに応じて酸素量を調整する。
- B. 心臓機能障害のある人では、利尿剤の服用によって便秘になることがあるが、本人からの訴えがなければ様子を見てよい。
- C. 血液透析をしている人では、透析導入後しばらくは、頭痛、悪心、嘔吐、筋痙攣などの症状が見られることがあるので留意する。
- D. 血液透析をしている人の食事管理は、医師の指示に従って、たんぱく質、塩分、水分、カロリーの摂取について留意する。

(組み合わせ)

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 109: 正答 5 × × ○ ○

A. ×「本人の求めに応じて」ではなく「医師の指示に従って」である。酸素療法では、個人に合わせて酸素使用量が医師から指示されているので、苦しくないからと勝手に酸素を止めること、苦しいからと酸素量を多くすること、苦しくても酸素量を上げないで我慢すること、などは症状の悪化を招く。酸素使用量は主治医と相談して指示された量を正しく使うことが必要である。在宅酸素療法は、1985年に医療保険の適用適用となり、急速に普及した。

B. ×「様子を見てよい」ではなく「医療関係者へ報告する」である。水分制限や利尿剤の内服などにより、便秘ぎみとなり、便秘による排便時には血圧を上昇させることがあり、心臓への負担を増加させる。便秘の予防には、食物繊維、果物、牛乳、ヨーグルトなどを十分に摂り、規則正しい排便習慣を維持することが大切である。

C. ○血液透析とは、腎不全になり、腎臓がほとんど働きがなくなったときに行われる治療方法である。脳は他の臓器に比べ老廃物が抜けにくく、周囲との浸透圧差が出るので、水分を吸収し脳浮腫の状態となるので、頭痛、悪心、嘔吐、筋痙攣、血圧低下などの症状が現れる。体が慣れていくに従って症状が起こらなくなるとされている。

D. ○食事療法の基本は、栄養素のバランスを保つことである。血液透析をしている人の食事療法のポイントは、①バランスの良い食事をする、②適切なエネルギーをとる、③適切な蛋白質をとる、④水分をひかえる、⑤塩分をひかえる、⑥カリウムをひかえる、⑦リンをひかえる、である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題110 直腸ストマのある人への介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないもの

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

に×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. パウチ内に下痢便があったが、本人が「大丈夫です」と言ったので、医療職に報告せず、そのまま様子を見た。
- B. えびやねぎは臭気が、ごぼうやさつまいもはガスが発生しやすいことを説明した。
- C. 浴槽に入る前に、ストマ部分を石鹼で強くこすって、よく洗うよう促した。
- D. パウチ装着部位に皮膚のただれを発見したので、保護材を多めに塗布して様子を見た。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 110: 正答 4×○××

A. ×「医療職に報告せず、そのまま様子を見た」ではなく「医療職に直ちに報告する」である。下痢や尿量の少ないときは、電解質のバランスがくずれて、脱水の可能性があるので注意が必要である。なお、逆に3日以上排便がみられない場合には、医師の指示により下剤を服用するとされている。

B. ○臭気を発生しやすいものは、ビール、豆類、ねぎ、玉ねぎ、アスパラガス、ニンニク、たまご、チーズ、かに、えび、魚などであり、ガスが発生しやすいものは、冷たい飲み物、ビール、ラーメン、いか、かに、えび、豆類、いも類、とろろ芋、きゅうり、キャベツ、だいこん、ごぼう、カリフラワーなどである。また、便秘をきたしやすいものは、白米、白パン、もち、とうもろこし、うどんなどである。

C. ×「強くこすって」ではなく「強くこすらないで」である。ストマがあるからといって入浴を制限する必要はなく、入浴用のパウチをつけて浴槽に入り、強くこすらないようにすることが大切である。また、入浴後は必ずストマ装具についている水気を拭きとることである。

D. ×「様子を見た」ではなく「医療職に連絡する」である。皮膚の異常や腹痛など認められた場合は、医療関係者に連絡する。ストマ周囲の皮膚のただれの原因には、①排泄物や粘着剤の接触によるもの、②頻回な装具交換や乱雑にストマ装具をはがすことによるもの、③発汗によりストマ周囲皮膚が不潔になるもの、などがある。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題111 うつ病の人の介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- A. 症状が少しよくなったときなどに自殺を起こしやすいので、注意する。
- B. 何もしようとしない人には、「頑張って」と激励する。
- C. 服薬をやめてしまっている場合は、医療職に報告する。
- D. 睡眠障害や食欲不振を伴うことが多いので、よく観察する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 111: 正答 3○×○○

- WHO の疫学調査には、うつ病の有病率は人口の 3~5%といわれている。
- うつ病になりやすい性格としては、「メランコリー親和型」と「執着気質型」があげられている。
- A.○「うつ病は治りかけが危ない」といわれる。自殺にはエネルギーが必要であり、精神運動抑制のある重症者には難しい。したがって、回復し安心したところに自殺が行われるケースが少なくない。
- B.×初期の段階では、「気の持ちよう」「気合いだ」「がんばれ」という精神論に走る人が多いが、精神論ではうつ病は治ることはなく、几帳面な人にとっては、「自責の念」が強くなったり、「焦り」が強くなったりして、かえって症状が悪化する。これが、うつ病の人を励ましてはいけないという理由である。
- C.○「症状が軽くなった」と言って、医師または薬剤師の指示がなく、服薬を中止すると、症状が悪化したり、場合によっては、自殺をすることがある。医療職への報告は適切である。
- D.○老年期のうつ病では、心氣的愁訴(身体的な訴え)、食欲不振、睡眠障害、不安・焦燥感、妄想などが出現し、認知症と誤解されやすく、そのため周囲があまり関心を払わないことがあり、自殺にいたるケースもある。「よく観察する」ことは適切である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】